梅村さんを送るにあたって

武　田　　弘（鉱物学教室）

梅村さんが鉱物学教室に来られたのは，教室が理学部２号館から５号館に引越して来たばかりの時でしたので，５号館に於ける10年間の昭和時代の教室の面倒を見ていただいたことになります。引越し後のドタバタ騒ぎはまだ終ってなく，新しく一緒になった数学・地質・鉱物の三教室と，５

号館の清掃の問題，戸の開閉，郵便の差し出し・受取り，きれいな飲料水の確保等，新しいシステム作りに仕事を始めたばかりのときでしたから大変な御苦労であったと感謝しております。梅村さんのお陰でこの10年間，教室の日常生活が非常にスムースに進み，何一つ問題らしい問題が起きませんでした。専任の秘書の居ない小教室である鉱物学教室では，事務の長谷川さんと共に梅村さんに，その仕事のかなりの部分をお手伝いいただいたことになります。梅村さんのご退官は今後の教室の上記の機能の停止を意味します。といいますのも人事委員会の特別の配慮のないかぎり定員削減で用務員の補充は困難であるからです。昭和時代の終りとともに何十年も続いた便利で快適であった今までの生活様式は姿を変えることになります。ここにそれがどのようなものであったか，梅村さんのお人柄とともに記録に留めておくことは有意義かと思います。

私の知る限りでは梅村さんは戦中戦後を通じて４代目で，先任の岡本つちのさんは明治女性の典型とも思える人でしたが，梅村さんも昭和の良き時代を代表するような印象を与える女性です。文字通り昭和の63年間をきっちり生きて来られた方です。まだお会いになっておられない方には，これも昭和を代表する女性である高峰秀子と佐久間良子を思いださせるいつも笑顔を絶やさない温和な人と紹介しておきましょう。朝早くからきちんと仕事を始められ，我々が仕事を始める頃には教室中きれいに掃除がおわっており，おいてあった物の位置が変っていないため，いつの間にか塵だけが消えた印象をもってしまう位です。殺風景な教室の中にあって梅村さんの部屋には世話の行届いた植木鉢が置かれて教室のメンバーにとって，まさに砂漠の中のオアシスでした。ある教官が長期海外出張の時に，彼の部屋の観音竹の世話を梅村さんにお願いしました。それまでは息も絶え絶え辛うじて緑を保っていた観音竹が，三カ月後にはこれがあの観音竹かと見違える程に生き生きと蘇っておりました。残念ながら，また一カ月のちには元の姿に戻ってしまいましたが。

鉱物学教室の基礎を築かれた先生方が英国留学されていた関係もあり，教室では３時から「お茶の時間」があります。教室事務の連絡や討論・文明論議がずっと何十年も続いていますが，その際の潤滑油である紅茶も定時に欠かさず準備してくださり，教室の円滑な運営に貢献しております。少ない予算で何年も値上げがなく同じ品質の紅茶が出てくるのは当教室の不思議の一つです。

日常研究活動で大切なことは，国内外の研究者との手紙による交流ですが，これも全ての記録が取られ間違いなく先方に届いているのも，あたりまえのように見えますが大変な御苦労であると感謝しております。特に私は郵便物の多い方で，国際共同研究，国内・国際誌の編集，論文の投稿等，時間を競う郵便物の差し出しで，梅村さんの帰宅前の忙しい時にご迷惑を掛け恐縮しています。５号館は理学部事務から最も遠い所にあるので，締切日ぎりぎりの書類を持参していただいてセーフであった経験を教室員皆が何度もしております。

これら教室の雑用の全てをスムースにこなして下さっている恩恵は，昭和63年度の終りと共に昭和の昔話になってしまいます。これから何時も不便を感じる時には，梅村さんを思いだして，陰ながらお世話になっていたことを，思いだす事が多い日々となると思われます。日本の大学は，そうでなくても雑用が多いのに一率な定員削減でますます海外との差が大きくなるのは本当に困ったことです。今まで梅村さんの存在で研究がスムースに進んだことを，この機会にあらためて感謝したいと思います。梅村さんにはご退官後，健康で有意義な人生を送られますことを教室一同心からお祈りいたします。